

2025 年度第 2 回看護師職能集会報告書

2025 年度第 2 回看護師職能集会が下記の通り行われた。

日時：2026 年 2 月 4 日（水）13：30～16：00

会場：岡山県看護会館 マスカットホール

研修テーマ：看護職員に対する患者・利用者とその家族等からのハラスメントへの対策
（在宅ケア現場における研究・調査から）

講師：武 ユカリ氏（森ノ宮医療大学）

研修会内容

開会挨拶（看護師職能委員長 池田 悦子）

看護師職能集会への参加および日頃の看護協会活動への協力に対し謝意を述べた。続いて、日本看護協会が本年 6 月に発表した「看護の将来ビジョン 2040」での、命・暮らし・尊厳を守り、支える看護といった課題について触れ、本日の職能集会が、参加者の職場づくりの参考となるのではと期待を述べた。

また看護師職能委員会の目的は看護職の課題発見と意見集約であり、様々な立場の方々から意見をとりまとめ看護協会として県に向けて発信していく役割である事を伝えた。

武 ユカリ 氏

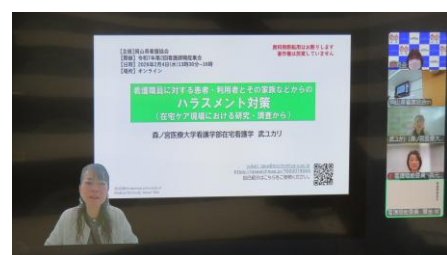
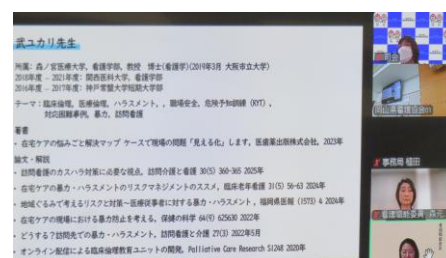
ハラスメント発生の背景とその予防・発生時の対応を理解することを目的に、組織的な対応の重要性、状況レベルと対応策、暴力の危険予知トレーニングや訪問看護の利用者・ご家族への対処方法についての講義があった。

後半は、事例をもとに 11 グループに分かれ積極的な意見交換会や話し合いがされ、発表後は講師より具体的な対応方法について述べられた。

【講義内容】

研修の目的：暴力・ハラスメント（カスハラ）に関する基礎知識を学び職員にとって安全・安心な職場づくりを考える。

1. 日本病院協会 院内暴力など院内リスク管理体制に関する医療機関実態調査(2008年4月プレスリリース)報告
2. 福岡市医師会 令和5年10月 医療現場の迷惑行為 調査結果報告
3. 患者・家族による在宅医療提供者に対する暴力・ハラスメントの事例や対策について
 - ① 暴力・ハラスメント対策の基礎知識習得の重要性
 - ② 暴力・ハラスメントの定義
 - ③ 状況レベルと対応策
 - ④ 知っておくべき在宅医療・介護現場の特徴
4. 在宅医療・介護現場でカスハラ判断基準を明確にするために
 - ① 管理者の認識とチームでの共通理解
 - ② 「みんな」で共通認識しておくべきこと
 - ③ 一般的なクレームと「そうでない」クレームの判断
 - ④ 無防備な傾聴のリスク
5. 在宅医療・介護現場でカスハラ対策を統一・共有するためには
 - ① 相談しやすい職場風土、記録のルール化
 - ② マニュアルの作成
 - ③ 事例検討のススメ



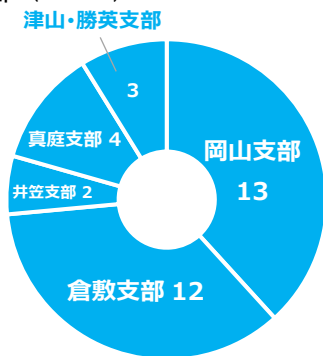
閉会挨拶（看護師職能理事 脇本 美香）

参加者および講師の武ユカリ先生への感謝の言葉を述べた。
 カスタムハラスメントをリスクマネジメントの視点から考えることができた。カスタムハラスメントというのは、個人の能力や接遇、不注意などで起こるものではないということ。そしてその方にとって必要なケアを継続して行うためには、ハラスメントを容認するのではなく職員に対するハラスメント行為には毅然とした対応を組織的に行うことが重要であるということ学ぶことができた。また暴力の危険予知トレーニングの基礎知識を習得することの重要性は新たな学びであった。ハラスメントに対するリスクマネジメントを行うことが、結局は患者さんや利用者さんを加害者にしないということに繋がる。職員を守ることはさらには、質の高いケアを提供することにもつながるのではないかと感じた。また後半のグループワークで実際の対策について話し合うことができ、より理解や学びが深まったのではないかと思います。日々の看護実践の中では、ハラスメントに対する様々な難しさを感じることも多いと思うが、本日の集会での学びを、今後の看護実践やマネジメントに活かしていただければと思います。と述べた。

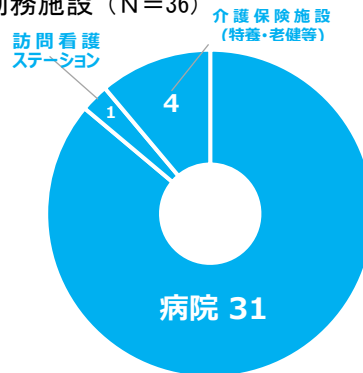
最後に講師・参加者への謝辞をもって閉会となった。

アンケート調査：36（回収率 72.0%）

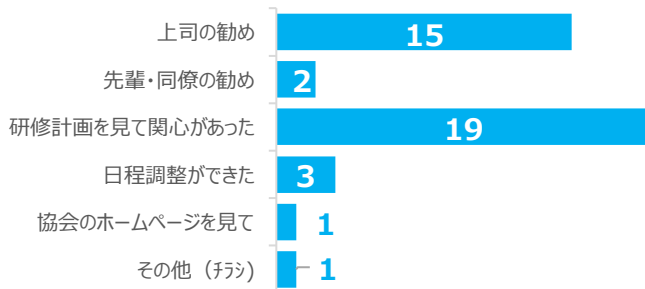
1) 支部 (N=36)



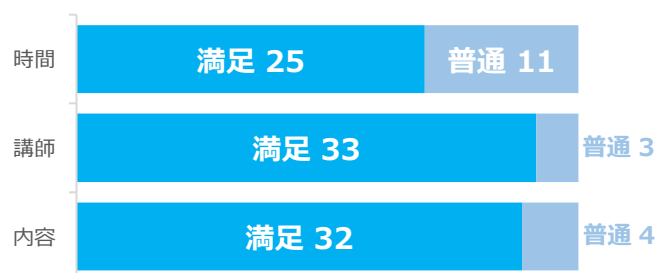
2) 勤務施設 (N=36)



3) 参加動機 (複数回答可)



4) 満足度 (N=36)



5) 目的達成度 (N=36)



6) 今回の集会に関するご意見・ご質問・感想など

- 病院内で起きた場合の対策を知りたい。
- どの現場においてもハラスメント対策は大切である。管理者の姿勢がハラスメントのない環境を作り出す一因である。自分の今回の研修で知識や考え方の甘さが感じられた。スタッフのためにも、患者のためにも毅然と立ち向かいたいと思った。
- 在宅ケア現場における研究・調査からのハラスメント対策への知識、理解を得ることが出来ました。病院で勤務していると、どうしても患者だから仕方ないと暴言やハラスメントがあっても聞き流す場合がほとんどでしたが、適切な対応をしなければ容認していると同じであると知り、組織で取り組むべきことであると学びました。本日は貴重な講演をありがとうございました。
- 具体的な対応策を教えてもらいよかった。
- 在宅に関することでしたが自部署でもいろいろ家族の希望などもあるので話し合いながら家族に説明していきたい。
- 患者や家族からの訴えや希望はついつい聞いてしまいがちですが、傾聴してはいけない内容もあることを理解し、私が行なっている対応が適切かどうか冷静に考えられるようにしたいと思いました。